



(神田撮影)

圖

二

第

普通ノおほはるしやぎく (Cosmos bipinnatus Cav.) ノ種子ヲ播イテ生ジタモノデアル、花ハ淡紅色デ總苞モ舌狀花モ他ト同様デアルガ特異トスル所ハ中心ノ筒狀花ガ大形ナ爲メ葯モ柱頭モ内潜シ全部ガ淡紅色デ黃色ニ見エナイコトデアル、本品ノ果實ヲ採ツテ昨年播イテ見タガ皆ヨク親ノ性質ヲ遺傳スル、想フニ本品ヲ生ジタ親植物ハ純粹デハ無クテ既ニ以前ニ於テ今度生ジタ如キ品種ト交雜シ其ノ遺傳因子ヲ包含シテキタ爲メ潜伏シテキタ性質ガ再現シテ突然本品種ヲ分離シタカモ知レヌ
 尙昨年横濱市内ノ或ル庭園デ舌狀花冠ノ狹長ナ一品ガ無數ノおほはるしやぎくノ中ニ唯一株ダケ混生シテキルノヲ見タガ遂ニ其レヲ得ルノ機會ヲ得ズニシマツタ

○杜仲軒赭鞭夜話 (八)

杜仲軒主人 久内清孝

●繇條ノ事

或人ガ牧野先生ガ本屋ヲ始メタト言フノデ何故カト反問シタラ先生ノ名ノ上ニ繇條書屋主人ノ文字ガアルト言ハレタ、笑事デハナイ本當ニソシナニ思ツテ居タラシイ、マタ外ニモ繇條ノ意味ヲ尋ヌル人モアツタカラ先生ニ代ツテ一應釋明スル、コレハ、エハン、書經ノ夏書禹貢ノ處ニ濟河惟兗州。

九河既道。雷夏既澤。灘沮會同。桑土既蠶。是降丘宅土。厥土黑墳。厥草惟繇。厥木惟條。トアルニ出發シテ居ルコトハ疑フ餘地ガナイ即繇ハ草ノ茂ル事條ハ木ノ長ズル事デアアル、以後繇條ナル熟語ガ出來テ草木ノ長茂ヲ現ス語トナツテ居ルコトハ佩文韻府ヲ見テモ判ル即チ先生ノ書齋名ハ草木ガ繁茂シテ居ルト云フコトヲ表示シテ居ルノデアアルガ先生ノ書齋ノ様ニ腊葉ニシタ草木ガ繁茂シテ居ル場合ニ果シテ此語ヲ使ヒ得ルカドウカハ勿論保證ノ限リデナイ

●くずノ葉

知己前田普羅君ハ一日余ト採集ニ出デ「くずの葉やひるがへるときおともなし」イ云フ句ヲ詠ンダコトガアルガ清少納言ハ「くずの風にふさかへされてうらのいとしろく見ゆるをかし」ト書トテ居ル着眼ノ同一ナ點カラ見テ自然ノ觀察ニ古今ノ差ガナイガ面白イ

●つばな

つば

なト稱シちがやノ若キ穂ヲ喫スル風俗ハ各地ニアル殊ニ東京ノ近郊ノ子供ノ間ニハヨク見ル慣デアアル、つばなハちばな即茅花ノ轉化デアアルハ言フ迄モナイガ此風ハ古代ヨリアッタモノト見エ萬葉集卷八ニハ紀女郎ガ合歡木ノ花ト茅花トヲ大伴宿禰家持ニ贈レル歌ト云フノニ「戲奴が爲め吾が手も數に春の野に抜ける茅花ぞ御食して肥え座せ」ト云フノガアル、此處デ「合歡木ノ花ト茅花ト」ト云フ季節違ノモノヲ一處ニシタ處ガ變デアアルガ其レハ「春に抜ける」ト云フ語ニヨリテ春ニ採ツテ蓄ヘ置キタルコトガ判ル即チ此ノ句デつばなヲ春採ツテ蓄ヘ置ク風習ノアッタコトマデ判明シテ甚ダ面白イ、序ニ家持ノ答歌ヲ紹介シテオク「吾が君に戲奴は戀ふらし給ひつる茅花を食へど彌瘦せに瘦す」、近頃ノ上流人デ茅花ヲ食フコトナド知レルモノハ鮮イノミナラズソナ話ナドスルト下品ナ様ニ思召ス様デアアル、シテ見ルト近代ノ上流人ハ萬葉集ヲ讀ムトイフゆかしさガナイ證據ニモナル、萬葉集ノ大家ノ格デ一言フン慨シオク

●あふち

棟即せんだんノ花ハ上古ニ於テハ相當

愛デラレタモノト見エ枕の草紙ナドニハ此ノ木ノ花ノ記事ガ散見スル今一例ヲ擧グレバ清少納言ハ「木のさまだにくげなれどあふちの花いとおかし」ナド書き遺シテ居ル、其處デ花ハ愛デラレタガ木ノ姿ハにくげなれどナドトヒデ鐵砲ヲ喰ハサレテ居ル、コレハ落葉後ノ枝ノ型ガブッキラボーナ爲メデアラウ、近クハ近松集林子

斷枝片葉 (其三十)

ナドモ其著孕常盤ノ中ノ露ノ轡蟲ノ處デ「身の成果や梅津の里、源左衛門が家の前、樗あかちの立木を其儘に、枝を打つ科人の、がう木の柱と定めらる」ナドトロクデモナイ處ニ引合ニ出シテ居ルノヲ見ルトあふちノ枝振りハ何人ニモ同ジ感ジヲ起サスモノト見エル

●樗ノ字

樗ハ桑樗ナドト書カレ動物ノ方ナドデハ受精卵ガ分裂ヲ始メテ細胞ノ數ガ増加シ丁度桑ノ果實狀ニ達シタトキナドニ桑樗期ナド、稱シテ居ル、然ルニコノ樗ヲさはらト讀マセヨウトシテ居ル人ガ生物學界ニアルノハ困ツタコトデアル、此點ニ關シテハ既ニ故人松田定久先生ガ植物學雜誌ノ三五五號ニ警告ヲ發セラレテ居ルニモ拘ハラズ應用生物學方面デハ今ニ使ハレテ居ル、貝原益軒モ大和本草序ニ既ニ唱道シテ居ル通り漢字名ノ不確實ナモノハワザ／＼漢字ヲ引合ニ出サズ假名デヤルコトニシタイモノデアル其レモ文字方面ヤナニカデ是非漢字ヲ入レタ方ガ句ノツリアヒガ善イ様ナトキハ別トシテ科學方面デハソナ場合ガナク全ク自由ナノデアルカラ殊ニ然リデアル

●砂糖漬カ芽ヲ出シタ

ハ先年米國產 *Date Palma* 果實ノ糖蜜ニ漬テ乾シタモノヲ洋食料店デ買ツテ食ヒ殘シヲ土ニ播イタコトガアツタガ何レモヨク發芽シタコノトガアル生活力ノ旺盛ナ一例トシテ記シオク

○斷枝片葉 (其三十)

牧野 富太郎

●やまうばのかみのけトおほやまうばのかみのけトおにやまうばのかみのけ

我邦諸州ノ山林或ハ竹藪ノ中

ナドニ枯枝朽葉ニ絡ミ着キ漆デ塗ツタ黒キ髪ノ様ナ者ヲ見受ケル、明治十四五年ノ頃私ハ土佐ノ國カラ其實物ヲ東京ナル伊藤圭介先生ノ許ニ送テ其名ヲ質問シタラ同先生カラ早速ニ其物ハやまうばのかみのけデ漢名雲霧草デアルトノ返事ガアツタガ此植物ニ就テ我邦デ始メテ其考證ヲ世ニ公ニシタノハ京都ノ山本亡羊デアツテ其著『百品考』三編(嘉永六年出版)ニ次ノ如ク出テ居ル即チ「雲霧草 和名ヤマウバノカミノケ 物理小識、